

東予高校 P T A だより

「万物は流転する」

教頭 井原 進一

今年度も本校生徒の教育活動に御理解と御協力を賜り、スムーズな運営ができていることに感謝申し上げます。

さて、東予高校として入学生を迎えるための高校入試が今年度で最後となります。三年前の九月二十九日発行の本誌には、当時のPTA会長が次のように寄稿されています。「愛媛県立学校振興計画が発表されたときは非常に寂しく思ったのですが、東予高校の過去を振り返ると学校名や学科改編は度々ありました。これは時代のニーズに合わせ生徒の教育環境を整えるために必要なことかと思われまます。学校の再編が行われても、先輩から受け継いだものづくりに対する思いを次世代に継承してもらいたいと思っております。」

「万物は流転する」古代ギリシャの哲学者ヘラクレイトスの言葉です。全てのものは動き続けて止まることはいかに気づいていた彼は、「人は同じ川には足を二度入れることはできない」とも言ったそうです。我が国でも、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどま

りたるためしなし」で始まる『方丈記』が、八〇年以上前に鴨長明によって著されています。「いつも流れる川は変わらないように見えているが、川そのものである水は、一瞬たりともとどまらず、そこを流れる水は同じ水ではない。水の流れが止まっている所に浮かぶ泡は、消えたかと思うと新しくできて、一つの泡が長くともどまっている例はない。」ということなのです。

川は水量が変化すればかたちも変化します。変化の時は摩擦が生じたり周囲の環境に影響をもたらしたりもします。ただ、しばらくすると岸には植物が根付き、水中には命の営みが始まり、周囲に潤いを与え始めます。学校の主役である生徒は川の水のようなもので水と川の関係は、生徒と学校の関係と同じだと考えられます。

生徒と私たち一人ひとり、川の淀みに浮かぶ一つの泡のような存在なのかもしれません。ただ、東予高校を次の世代につなぐ大切な一瞬をつくりあげるかけがえのない存在でもあります。この流れを継承するために、PTAの協力が必要不可欠であるこ



とだけは変わる」との事実は信じています。

令和6年度耐久徒歩大会

優勝・準優勝インタビュー

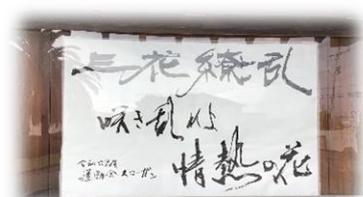
本校の恒例行事である耐久徒歩大会が、昨年度までのコロナ禍の短縮コースから、黒瀬峠までの20.8kmまで距離を伸ばして実施されました。優勝者は建設工学科二年三浦和久君（1時間53分21秒）、準優勝者は電気システム科二年棗雅喜君（1時間54分04秒）です。ハイレベルな競り合いを繰り広げた二人に、インタビューを行いました。

インタビュー…(以下イ)

優勝、おめでとうございます！「山の神」を彷彿とさせる好タイムでしたね。

三浦君…(以下三)

ありがとうございます。スタート時から一位を目指そうと思いい、気合



いを入れてました。最初はゆっくり入って行って、次第にペースを上げました。初めての山登りで体力的にもしんどかったのですが、野球部での坂道ダッシュの効果もあって、最後まで自分のペースで全力で行けました。

イ…なるほど！坂道ダッシュは効きますねえ！惜しくも準優勝でしたが、棗君はどうでしたか？

棗君…(以下棗)

最初はクラスメイトの十亀君、村上創思君と一緒に走っていたのですが、山登りに入るときに「ここからは一人で走るけん！」と宣言して一人旅で走りました。山はきつかったのですが、坂下りで足が軽くなりそのまま走り切れました。前を走っている人たちがいたので、一人一人を目標にできたのも良かったです。イ…私もハーフマラソンを走ったことがあります、二人とも私のタイム



より大分速いです(笑)。何かコツはあるんですか？

三…僕の場合は、最初はジョギングのスピードで走って、山登りの時はつま先を挙げて、できるだけ体力を使わず走るようにしました。

棗…僕は小学校4年生から6年生まで学校で持久走をしていたのですが、その時に頑張ったのが今でも活きているのかもしれない。

イ…なるほど！保護者の方に結果報告はしましたか？

三…優勝したよ！と伝えたら、「スゴッ！」と言われました。実は小学校の時はマラソンは苦手で、いつも最下位だったんです。

イ…え、本当ですか！？意外ですね。
三…本当なんです。中学校で野球部に入って、ランメニューや練習をするうちに徐々に速くなっていった感じですよ。

イ…いやあ、努力の賜物ですねえ。棗君はどうでしたか？

棗…僕も褒められました。父もよくマラソンを走っているんですが、このタイムは俺より速いぞと。母も喜んでくれました。

イ…陸上部でもないのに、あの坂道で2時間切りですからねえ。

棗…18歳になったら愛媛マラソンを

走れるので、父と一緒に走ってみたいですよ。

三…僕は遠慮しときます(笑)。
イ…二人は部活動も頑張っていますが、長距離走は部活動にも活かしていますか？

三…野球にも活かしていると思います。持久力とか精神力とか。

棗…弓道には…どうでしょうか。弓道は上半身の筋力が必要なので…(笑)。

イ…粘り強さにはつながっていると思いますよ。ところで、あくまでも「耐久徒歩大会」なので、あえて走らなくても大丈夫なのですが、走り切ろうと思ったポイントは何だったのでしょうか？

三…僕はもともと走ろうと思ってましたし、20kmを歩いたら、そっちの方がしんどいんじゃないかと思って走ってしまいました。あと、九位八位とかじゃなくて、走るなら一位を、と思ってガチで行きました。

イ…やっぱりプライドみたいなものがあったんですか？
三…ちよつとだけありました(笑)。
棗…僕も最初は友達と歩いたり走ったりしていたのですが、スイッチが入って気付いたら走ってました。

イ…え、歩いてもいたんですか？それ

で準優勝は、まだ伸びしろがありますね！

三…やばいですね、びっくりですね(笑)。
イ…二人のタイムも競っていますし、一年生にも日野一成君、矢原君とライバルがいます。次回が楽しみですね。では、来年度の耐久徒歩大会に向けて、抱負を聞かせてもらえますか？

三…次回も一位を目指して、家族にいい報告を伝えられるように頑張りたいです。

棗…僕は次は1時間40分台、30分台を目指して帰ってきたいと思っています。

イ…1時間30分台はびっくりですね！。来年度の耐久徒歩大会も応援しています。頑張ってください！

三…棗…ありがとうございます。寒い中、沿道で準備や応援をしてくれている先生方や保護者の方にも、心から感謝しています。東予高校生みんなで完走・完歩できるように、一生懸命頑張ります！



2学期行事を振り返って

